B　本時の授業の実際と研究協議の内容

1　本時の授業記録

授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
1　自分が好きな食べ物を食べられてしまったらどうするかを考える。	
T：　では、目をつぶってください.]	
T：今、みんなが一番大好きな食べ物がお皿の上にあるよと心の中で想像してください。	
T：では、その食べ物をお友達に先に食べられてしまいました。どうしますか？どう思いますか？	C：ずるいと言う。 C：食べないでと言う。 C：私のなのにと言う。 C：そんなことしちゃだめって言う。
T：じゃあ、ほかにもいろいろあったと思うのよね。じゃあ、だめって言えなそうって人いる？ T：いえないかも？	C：（２人手を挙げる） C：いえないかも（つぶやき）
2　資料「ダメ」を読んで話し合う。	
T：～さん見えますか。（２人に確認） T：資料「ダメ」を紙芝居で読む。	C：紙芝居終了後に席に戻る。
T：では、「ダメ」っていうお話ね。ぼくは、プリン大好きだったですけど、くまくんが食べちゃいました。でも、嫌だったんだけどダメって言えなかった。くま君にだめっていえなかった夜、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。	Cだめって言えなかったから、たべちゃったのかな。 C：くまさん、口が大きくていいな。 C：ぼく、勇気出して言わなきゃいけなかったんだなあ。 C：だめって言ったほうがいいのかなあ。言わないほうがいいのかな。 C：早く食べちゃえばくまさんにたべられなかったのに C：くまくんみたいに大きいお口になりたかった。 C：だめって言えばよかったな。でもだめっていったら、怒られちゃうかなあ。 C：明日、くま君に謝ってもらう。 C：おやつ抜きにすればよかった。
T：（子供たちの発表の内容を繰り返し言いながら、板書する。）	
T：じゃあね、勇気だして言わなきゃなあ、言ったほうがいいかなあ。ダメっていっときゃよかった。あした、謝ってもらう。という気持ちと夜ね、あー、言えなかったからくま君食べちゃったのかなあ。	C：

T：早く食べちゃえばよかった。大きくなりたかった。でも、言ったら怒られちゃうかもしれない。どうしようかなあと思う気持ちがぼくにはありましたが、結局ぼくは、明日くま君に言おうと決めました。そして、最初は小さい声だったけど、最後は大きい声で「僕は嫌だったんだ。くま君謝って」って言ったら、くま君は「プリン食べてごめんね。」と謝ってくれました。（紙を黒板に張りながら言う。） T：じゃあ、謝ってくれた時、ぼくは、どう思ったでしょう。 T：今度は書きますので、机の上に筆箱をのせます。	
T：はい、プリントを配りますので名前を書けたら鉛筆を置きます。鉛筆は普通のえんぴつで。	C：ワークシートに書く。
T：では、ぼく嫌だったんだ。くま君謝って！といったら、「プリン食べてごめん」と謝ってくれました。この時、ぼくは、どう思ったでしょうか。プリント、この中に（□の中）ぼくの気持ちを考えて書きましょう。 T：（机間巡視） T：では、くま君が謝ってくれたとき、ぼくはどんな気持ちだったか、ぼくになって言ってほしいと思います。 T：（お面を準備） T：発表したい人立って。じゃあ、今立った人プリント持って前に出てきてください。	C：（お面をかぶり、前に一列に並ぶ） C：謝ってくれてありがとう。 C：やったあ。解決だあ。 C：謝ってくれたけど、プリンたべたいなあ。
T：なんでよかったの。謝ってくれたからよかったとおもったの。なるほどね	C：よかった。 C：言ってよかった。
T：～さん、くま君はなんでわかってくれたんだろう？	C：わかればいいんだ。これからは自分で食べるから。 C：ごめんね言ってとぼくが言ったから。
T：めんね言ってとぼくが言ったから、わかってくれたんだよね。 T：～君、なんで許したんだと思う？	C：はい、じゃあ、くまさん、許してあげる。 C：ごめんね言ってくれたから許してあげた。

T：ごめんね言ってくれたから許してあげようと思ったのね。	C：謝ってくれたから、いっしょにいちご食べよう。仲よくね。 C：くまくんががんばってくれた。
T：はい、発表してくれた人ありがとうございます。席に静かに戻りましょう。	C：よかった・怒らなくて。
T：それでは、〇さん、〇さん立ってください。 （5 人の呼名をして起立させる。）	
T：じゃあ　〇さん、なんて書いた？	C：よかった。謝ってくれた。今度からダメって言おう。
T：〇さん。	C：いいよって思った
T：〇さん。	C：くまさん、本当はちょっと怖いけど、勇気出して言えてよかった。
T：〇さん。	C：こっちこそ、ちゃんと言わなくてごめんね。
T：おまたせしました。〇さん。	C：夜、ベットで思った通りになってよかった。
T：くま君が謝ってくれた時、謝ってくれてよかったなあ。大きな声で言えてよかったなあ。言ったからわかってくれた。言ったから謝ってくれてありがとうって思った。だから、今度からはダメって自分も言おう。勇気出して言えてよかったな。昨日の夜、考えた通り、でも言おうと思って言ってよかったなあ。そしたら、一緒にいちご食べて、今度はもっと仲良くなれるよって思った人もいました。	
3　自分の生活を振り返る。	
T：では、この今のぼくみたいにちょっといいにくいなあって思うこと、でも自分はこうやったほうがいいと思うことを勇気を出して言えてよかったなあと思ったことはみんなにはありますか？僕のようにドキドキ	

はするけど勇気出して自分がいいと思うことを言えてよかったこと。学校のこと、保育園・幼稚園のこと、育成のこと、アクティのこと、習い事のこと、おうちのこと、今度は、自分が言えてよかったなあと思うことをおとなりに書きます。どうしてもないや、いっぱい思い出したけど浮かばないという人は、反対、言おうと思ったけど言えなくてちょっともやもやしたこと。言おうと思ったけど、ぼくみたいになやんでいてどうしようもなくて言えなかったということでもいい。では、自分のことを思い出して書いてみましょう。	
T：１つお願いがあります。お友達の名前をかいている人。そこは言わなくていい。友達がこうしてたときっていう。	C：けんかをして、強い声で言ったとき、ごめんねと謝った。 C：その日は言えなかったけど、お母さんに相談して、次の日に自分で言った。 C：謝ってよかった。 C：お姉ちゃんに （聞き取れませんでした。）
T：それは、もやもやしたほう？それはお姉ちゃんに何といえばよかった？ T：とらないでって言えばよかったね。	C：とらないで。
	C：パソコン見ているときにムシがめちゃくちゃになってママにおこられたとき、お母さんに、ちゃんとやるからもう一回見せてと言った。 C：友達の家で秘密を教えてって言って教えてもらった。ごめんねって言ったら秘密を教えてもらえたからよかった。 C：ごめんなさいといえてよかった。
T：ごめんねって言ったら秘密を教えてもらえたの。 T：自分からごめんなさいといえてよかったね。	
T：さあ、みんなにも言えてよかったということがありました。今、思いつかなかったよという人、お友達のことを聞いて、ぼくにもる、わたしにもあるということがあるかもしれない。	
４　教師の説話を聞く。	
T：じゃあ、次は先生の話です。言えなかったことの話です。 先生は２年生のとき、とても仲のよい女の子がいまし	

た。でも、先生はその子にいろいろ言って嫌われるのがこわかったです。次の日「フン」とされたらどうしよう。けんかになったらどうしよう。だから、その子の言うことをなんでも聞いていました。そしたら、2学期になったらだんだんその子ね、たぶん「先生がいやだ、自分でやって」と言わないからいいと思ったのね。朝の支度の時にランドセルロッカーに入れて手来てっていうの。「うん。」休み時間に遊びに行くとき「帽子とってきて」「うん。」次、図工の時間、「図工だから絵の具とってきて」「うん。」ずーとやってたら思ったの。なんか先生、なんかこの子の友達じゃなくて、めしつかいみたいでいやだなあって。ねえ、王様と言うこと聞くみたいでいやだなあと思ったけど、ずっと言えなかった。1年過ぎました。ねえ、このままずっと、言うこと聞かなきゃいけないのかなあと思っていたら、先生の場合は、たまたまその子が引っ越しして学校かわったんです。転校したから最後のお別れ会も一緒にしたし、なかよくばいばいってしたけど、言えないままでしたけど、次、3年生になったときお友達作るときは、嫌なことは嫌っていわなきゃだめだなと思いました。みんなはちゃんと自分のことを言えてる？	C：恥ずかしくて言えない時がある。
T：では、プリントは後で集めますので、あいさつが終わったらまだ座っていてください。	
T：日直さん	C：気をつけ　これで5時間目の道徳のお勉強を終わります。(はい) ありがとうございました。